

独立行政法人地域医療機能推進機構 群馬中央病院  
令和6年度第2回地域協議会議事録

【日時】令和7年1月17日(金) 13:30 ~ 14:15

【場所】群馬中央病院 別館2階 中会議室

【出席】13名

中島 高志(群馬県健康福祉部長) 代理:高橋 智之(健康福祉課医療・福祉連携推進室)  
細谷 精一(前橋市副市長) 代理:宮坂 恵理子(前橋市健康部長)  
手島 一樹(前橋市消防局長) 代理:琴寄 敏行(前橋市消防局救急課救急課長)  
川島 崇(群馬県医師会副会長)  
須田 浩充(前橋市医師会会長)  
外山 卓二(前橋市医師会病診連携担当理事)  
細内 康男(社会福祉法人恩賜財団済生会支部群馬県済生会前橋病院長)  
清水 奈保(群馬県看護協会専務理事)  
田代 俊哉(紅雲町一丁目自治会長) 代理:櫻井 良弘(紅雲町一丁目自治会)  
内藤 浩(群馬中央病院院長)  
青野 努(群馬中央病院事務部長)  
茂木 香里(群馬中央病院看護部長)  
蟻川 勝(群馬中央病院薬剤部長)

【欠席】2名

伊藤 理廣(群馬中央病院副院長)  
寺内 正紀(群馬中央病院副院長)

【議事概要】

1. 院長挨拶

2. 委員紹介

3. 活動報告

(内藤議長)

- 経常収支は、11月まで黒字で推移している。
- 入院患者は、270人前後で推移している。実働300床ほどになるため9割前後の利用率である。
- 外来患者数は減ってきているが、紹介重点型の病院のため外来患者数が減っていくのは自然の流れだと思っている。
- 紹介患者数は増えており、11月時点で7,000人弱、年間では1万人くらいの非常に大きな数である。  
今回JCHOの東日本25病院の中で紹介患者数を見たところ、群馬中央病院が一番多くの紹介をいただいている。例えば3番目に紹介が多い山手は社会保険病院の中でも私たちにとっては聖地のような施設で、4番目の新宿は厚生年金病院というブランドのある病院からJCHOに移行してきており、そのような病

院よりも多くの紹介をいただけているということはありがたいこと。地域の先生方、患者様に支えられて私たちがいると思っている。

- 救急車の受け入れは、昨年よりやや少ないか同じくらいである。日赤、群大、済生会が多く、地域医療支援病院と大学、いくつかの病院で前橋の救急を支えさせてもらっている。
- 一次予防、病気を防ぐということも地域医療の中で大切な役目であり、健診事業にも力を入れている。健康管理センターの利用として、ワクチン事業のために令和3年は特出しているが、現在は36,000人、年間で5万人ほどの利用者になる見込みである。  
地域の皆様に病気になる前の予防と、病気になっても病院で早めの治療もしくは地域の先生方をお願いしている。
- 前橋市などからご要望いただく中で特定保健指導の件数を増やそうと目指し、保健師等の頑張りもあって増やそうということに対してお応えできている。
- 地域の役割として小児、周産期は欠かせないことであり、NICUの利用率は90%以上で稼働している。
- PFMは今後一層地域に開かれた病院になるために何ができるか、その流れを作っていくための取り組みをしている。
- 医療、介護の連携では、介護施設の支援をしている。感染の研修をやったり、連携施設の訪問をしたり指導をしたりしている。医療、介護の連携については以前より準備をしていたことであるため、対応できていると考えている。
- 地域の活動として、認知症カフェを開いているが、これは地域包括支援センターを前橋市から受託いただいております、地域の認知症の方々、生活困難な方々に対応している。
- 高齢者施設、公民館での感染対策などのため、認定看護師を無料で講師派遣をしている。
- 事業所や地域住民の方に健康教室を開催している。
- 市民健康医学講座を開催し、150人ほど来ていただきいろいろなテーマで開催をしている。  
今回は人生会議、ACPについてみんなで勉強をした。
- 8月24日に納涼会を行った。1,000人以上の市民の方が来場した。次回も同じような時期に開催したい。
- リレーフォーライフジャパンに参加し、このような活動を通して地域に開かれた病院として何が必要かということを常に考えながら、自分たちの守備範囲というのを模索しているところである。

#### 4. 意見交換

(高橋代理)

県としても2025年は大きな節目の年であり、新たな課題に向かっていけるように連携して進めていきたいと思っている。

医療業務の連携を進めている中で、こういったカンファレンス等機会に感謝申し上げるとともに、引き続き連携していけるようよろしくお願いいたします。

(内藤議長)

引き続きよろしくお願ひしたい。

(宮坂代理)

受け入れ件数について心強く感じている。特定保健指導の件数が伸びており、どのような形で伸びてくれたかご指導いただきたい。

(内藤議長)

当日指導するようみんなで頑張ってきたためであり、今後もやっていきたい。

(琴寄代理)

救急の件数について、令和6年は20,464件で令和5年より405件多かった。前回の協議会では、10%ほど増えているとお話をしたが、熱中症が令和5年より少なく収まった。後半は、松坂市の選定療養費であるとか、茨城県の救急有料化という話が出てきたため、救急が減った。結果的には5%の増加にはなったが、1件1件の救急が長くなり逼迫状態となって医療機関の皆様にはご迷惑をおかけしている。

その中で高齢者率が上がっていて、群馬中央病院でも小児の救急が200件ほど少なくなり、おそらく搬送も小児は少なくなっているのだろうと思う。また、この年末年始が9日間あり群馬中央病院では1日、5日と二次輪番を受けていただき、おかげさまで前橋消防はパンクすることなく終えられた。他市ではパンクしているところもあったと聞いている。また、31日は群馬中央病院に多く収容していただき二次輪番ではない中でありがたかった。

(川島委員)

群馬県では前橋一極集中が起きており、他地区に比べると圧倒的に医療機関や医師の数が多いい地区で、前橋だけでなく周辺地区も含めてタッグで頑張っていたきたい。特に渋川は近いということもあり、私の分野で言うと内科や糖尿病等でいつもお世話になっている。大変ありがたい。今後も一極集中の傾向はどうしても続くためよろしくお願ひしたい。

(内藤議長)

前橋は医療機関等充実しているため、日赤や大学とも連携をしながら患者さんを診られる体制を作っていくたいと思っている。

(須田委員)

他院から多くの患者受け入れに大変感謝をしている。年末年始の話が出たが、新しくできた夜間救急診療所では一番ピークで500人以上の患者が来られた。500人は前橋市民だけでなく、他市からも多く来られた。今後ともよろしくお願ひしたい。

(外山委員)

以前、内藤先生ともご一緒していたが、当時の群馬中央病院から各段に進歩していると実感した。

市民への働きかけ、いろいろな会社への啓蒙活動や健康管理や予防に対する活動については、目を見張るような進歩をした、と先生の話聞いて実感をした。

前橋市医師会のほうでもブロック別に看護師、薬剤師、医師、ケアマネジャーとの話し合いの場を持っている。ACPについても非常に重要な点であり、そのようなことを話すことによって医師会としても働きかけとしていきたいところであり、群馬中央病院は非常に連携しやすいと思うので、今後お互いに切磋琢磨したい。

(内藤議長)

医師会と連携をしてどうやっていくか考えたい、今後も忌憚のないご意見を頂戴したい。

(細内委員)

現在、急性期病院で黒字が出ているのは全国でも2割ないのではないか。そのような中でこの5年間安定して経営されていることに色々勉強させていただいているところ。

済生会、群馬中央病院、日赤、群大は毎月いろいろな情報を共有している。そういう中で群馬中央病院の特色が出てきたり、済生会の特色が出てきたりとわかってくることもあり、今後とも情報共有をしながらお互い

の専門分野を活かして地域医療に貢献したい。

一点、我々としても悩んでいることだが、退院日の決定は医師から看護師への権限委譲は実行されているか。

(茂木委員)

実行している。先生が許可を出して、退院日を師長が決める、ということでやっている。

(内藤議長)

限られたベッドの中での有効利用は大事で、看護部に権限を委譲してベッドコントロールをしていく、例えば外科のベッドがいっぱいでも産婦人科に入れさせてもらうなどしていかないと、より多くの患者さんに病院を活用していただけないので、しっかりやっていきたいと思う。どうやったらベッドの有効活用をしていけるか、と考えていくという意味でのPFMでもある。

(清水委員)

分娩件数が下がっているが、群馬中央病院で生まれたお子さんがNICUに入る、という感じか。

(内藤議長)

NICUにはあちこちから搬送されてくる。

(茂木委員)

ほとんどが外から母体搬送で来ている。

(清水委員)

無痛分娩についても考えているようだが、来年度からなど検討されているか。

(内藤議長)

やりたいが体制が整わず、方々とセッション中である。院内でも調整中。人数はそれほどいないのかもしれないが、東京都では補助をするなど話が出てきている。少しでも少子化対策にお役に立てれば、と準備をしている。

(清水委員)

助産師の教育、というのも必要かなと思っている。看護協会では県の委託等事業として、助産師活用推進協議会というのをもっている。2月20日に産科の管理者から課題がでたもの26日の協議会でかけたいと思っている。現在前橋日赤からも無痛分娩の話が出ていたり、要望がかなりあり、体制を整えていかなくてはいけないのかな、と思っている。

(内藤議長)

お産は一時800~900件あったが、去年は300件ほどで、今年は増えてきて400件ほど望める。コロナの影響等あるのかもしれないが、前橋市も県もどうやったら少子化を止められるかという動きに我々も参加したいと思っている。現在、産科病棟を全面改装しており、4月運用に向けて工事中である。

(清水委員)

お産が一大イベントになっているため、より工夫が必要だと思っている。

(内藤議長)

今後とも少子化対策に今後ともご協力願いたい。

(櫻井代理)

健診を優先的に申し込めるようお願いしたい。

(内藤議長)

健診事業に力を入れているため、より申込みやすい体制づくりを考えている。

なかなか電話がつながらないこともあるが、ホームページから申し込みできないかとか、他のルートからできないかとか考えているため今後とも情報提供させていただきたい。

(外山委員)

医師が日常診療で忙しい中で、多職種に入っていくことへの配慮の仕方について如何。

(内藤議長)

先生もご承知の通り、地域連携を一生懸命にやっていく中でチーム医療も一緒に育ってきた背景がある。その中でNSTとかクリニカルパスも文化として根付いた。感染対策チームを作ったり抗生物質の適正使用チームを作ったりした。褥瘡なども皮膚科の先生もいるし、チーム医療という面では皆さん協力していただいている。医師だけでは医療のレベルを保てない時代が来ている。例えば糖尿病は専門医が2人だがそこに認定看護師が付いたり、栄養士がいたり、地域連携パスとしてクリニックの先生たちと行ったり来たりというのが増えてきた。

私たちは今後もいただいたご意見を参考にさせていただきながら地域に開かれた病院として活躍できるように頑張っていきたい。

## 5. その他

特になし

(内藤議長)

2025年の初年度で、これから超高齢化社会、皆様、それから公的公立病院の先生方と一緒にやっていきたい、ぜひよろしくをお願いしたい。

以上